

# 東京都議選勝利へ!

2017年5月13日  
No.464

Tel 03-3651-4861  
mail\_cn001@zengakuren.jp  
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

## 5/29~6/9京大同学会 執行部選挙に勝利しよう!

### 全学連書記長・作部羊平(京大同学会委員長)

5月29日から6月9日にかけて、京都大全学自治会同学会執行部選挙が行われます。現在、私を含めた4学生(15年10月の京大反戦ストライキでの「無期停学処分者」)に対し、「退学処分」が狙われています(5月2日に「聴き取り調査」)。明らかに、例年5~6月に行われる同学会執行部選挙を見越してのものであり、自治会選挙そのものをつぶそうという意図にほかなりません。

来たる選挙の第一の課題は、圧倒的な信任のもと、新執行部を樹立し、京大生総体の声として「退学処分阻止!」を京大当局に突きつけることにあります。第二の課題は、軍学共同研究反対の闘いをさらに広範なものにすることです。第三の課題は、京大・山極壽一総長体制の下、急速に進行する学生自治破壊に対し、広範かつ大衆的な反撃を開始するという事です。第四の課題は、「京大と安倍政権との一体性」を明らかにし、京大生が社会総体の変革に立ち上がっていくことです。

京大はいま、重要な分岐点にさしかかっています。今年2月には新聞報道で、京大教授が08年から16年にかけて米空軍から約2070万円の資金供与を受けていたことが判明。資金を受け取っていた教授は「学内手続きに則った」とコメント。完全に開き直りの姿勢をしめしています。日本学術会議では、山極総長も加わった検討委員会での論議の末、「軍事研究は行わない」とこれまで2度にわたって宣言した声明が骨抜きにされました。山極総長の責任は重大です。自治寮に対する団交拒否など全面的な学生自治解体が始まっています。

私たちはこの中で、2月に同学会代議員会を開催し、徹底議論。それ以降、「軍学共同研究反対! 処分撤回!」を柱にキャンパスでの活動を進めてきました。

4月は新歓ガイダンスにあわせ、「軍学共同研究」の是非を問うシール投票を実施。さらに『軍学共同研究に関する情報開示を求める申し入れ』にむけ、クラスで賛同

## 国鉄1047名解雇撤回! 戦争・民営化と闘おう

## 国鉄闘争全国運動 6・11全国集会

◆6月11日(日)13時~

◆江戸川区総合文化センター大ホール

(東京都江戸川区中央4-14-1)

【主催】国鉄分割・民営化に反対し、1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動(国鉄闘争全国運動)

※写真は1600人が結集した昨年の国鉄大集会(江戸川区総合文化センター)



決議を実施。21クラスから賛成のクラス決議があがりました！

そして、「退学処分」がいよいよ問題になるなかで、私たちは自らの転換をかけて4・26京大集会ー5・2退学処分阻止「クスノキ前1日占拠行動」に立ち上がりました。私たち4人に対する処分は、大学の矛盾がいよいよ明らかになり、実際に広範な学生が声を上げ始めたことに対する「見せしめ」に他なりません。

だから処分を打ち破る道は、私たちへの攻撃も糧に、より多くの学生が声を上げることにあります。2つの集会を通して私たちは、自分たちの主張を叫ぶだけでなく、広範な京大生が自らの言葉で、自らの思いを訴える場＝「解放区」をつくりだすことに挑戦しました。実際、私たちの知らない学生たちが自ら誘い合い、集会に参加し、アンケートなどの形で自らの声を発し始めました。

同学会執行部選挙を、全学生が大学の矛盾と向き合い、声を上げ、行動を開始し、「大学の主人公」としての自覚と力を取り戻すものにしたい。一人ひとりの学生の主体的行動が積み重なったとき、必ずや15年10月のストライキを超える闘いが生み出せると確信しています。

## ■沖縄大学からの報告！

### 《5月10日(水)》

今日は昨日とは打って変わって、さわやかな一日になりました。今日はまず、昼休みに正門前に登場しました。この間使っている看板をズラ一と並べると壮観で、立ち止まって見ていく学生もちらほら。ビラを受け取って話になり、署名をしてくれる学生も現れました！「4人に1人が辞めていく」沖大、この向き合わなければいけない現実と真っ向から対決する自治会の訴えは、確実に学生に響いています。

展開していると去年の自治会選挙の時には暴力をふるってきた当局職員が通りがかるのですが、まったく手出しすることができません。どちらに正義があるかは、もうはっきりしました。

今日は新しい『前進』が届いたので、みんなで読みま



した。今回の前進は沖縄の「『復帰』45年5・15アピール」が載っています。1971年の2度の全島ゼネストを引き継ぐ基地労働者の闘いは、基地を止め、戦争を止める力を示しました。この闘いの先頭に立ったのが青年労働者と「第四種雇用」の労働者でした。「SACO報告から20年余り、米軍再編から10年余りを経ても辺野古新基地建設は完了していません。それはアメリカ帝国主義と日本帝国主義による朝鮮侵略戦争が20年以上にもわたって阻まれ続けてきたことを意味します」ー現在の辺野古基地建設反対の労働者・学生の闘いもまた、戦争を始まる前に止める力を示す闘いです。

この闘いの確信を新たにつなげた沖大生と早く共有したい！一人でも多くの学生と討論できるよう、明日も頑張ります！

### 《5月11日(木)》

今日は満月。空が晴れていて夜空を明るく照らしています。今日は朝、学生が来る前の教室にビラを入れるところからスタートしました。早めに教室に来た学生に声をかけながらビラを渡すと、真剣に読み込んでいました。昼休みは月曜日以来3日ぶりにキャンパス中央に登場しました。「今日は紹介したい闘いがあります」と、赤嶺くんが演説を始めると、昼休みが終わるまで座って聞いている学生もいました。いつも正門前ではビラを受け取らない学生もビラを受け取り次々と討論になりました。出張で沖大に来ていた献血カーのスタッフの人も署名に協力してくれ、「頑張っ！」と、激励してくれました。いつも演説を聞いている学生からも「今日は力がこもってましたね」という感想が！

今日の午後はキャンパスで休んでいる学生に積極的に話しかけにいき、討論をしました。週6回働いている学生、学費の高さや有料の駐車場で金儲けをしている大学に怒りをあらわにする学生、毎日の演説に共感を寄せてくれる学生もいて、僕たちが想像していた以上に訴えが浸透していると感じました。5・15集会に参加したいという学生も現れ始めました！

「『復帰』45年5・15沖縄闘争」まで残り1日、最後まで1人の決起にこだわって闘いぬきます！

